

加賀さんじ水着を着せて

あれや
これや

する本

成人向け
夕風荘






流行に疎いという加賀さんのために一緒に水着を選んであげることになった。お店の中で一番きわどい水着を渡して試着室に押し込むと文句を言いながらもちゃんと着てくれる。可愛い。

あの…

さすがにこれは恥ずかしいけど…



露出が多すぎるなどと
いつまでも不満を漏らすので
少しお灸を据えてあげることにした

ちよっと、
何を考えてるの？


カーテンの向こうには
ほかの客もいるのよ？

すぐそこに人がいるという状況に体が疼いて
しまったのか、すでに秘所はじっとりと濡れていた。
勃起したペニスを加賀さんの奥深くまで
挿入してやるとくぐもった声が個室に漏れ出した。



や…っ
は…あっ

…っあ
…は…っ



張り詰めたペニスで何度も子宮口を小突かれて
蕩け切った柔穴の感触を愉しみながらの膣内射精。
ビクビクと痙攣する膣肉に締め付けられながら
最後の一滴まで加賀さんの中に吐き出していく。

いっ…っあ

あ…っ
あああっ

試着室から出ると、周りの人たちは
皆気づいていたようで、露骨にこちらから目をそらした。
顔を真っ赤にして足早に店から出て行く加賀さんを
追いかけてながら、今度はどんなシチュエーションで楽しもうかと
思案を巡らせるのであった。

海軍のお偉いさんから甥っ子に水泳を教えるために
艦娘を一人派遣してほしいとの依頼を受けた。
一部の人間からは艦娘は兵器というより一種の
アイドルのような扱いをされており、
時折こういった接待のような依頼が
舞い込むこともあった。

艦娘である以上、一通りの
水泳訓練は受けています

鎧袖一触よ
心配いらなわ

海軍での訓練の経験を生かした指導は丁寧かつ適切で、
たちまち子供たちから人気の先生となった。
しかし、適度に引き締めつつも肉付きのいい
理想的ともいえる女性の水着姿は
あどけない子供たちに性の目覚めを起こさせるのに
十分すぎるほどであった。

やけに皆から
見られて
いるよう
な…

説明でどこか
わかりにく
いところ
でも
あったか
しら？





子供たちから向けられた視線を
教え方への不満と受け取った加賀は
これまで以上に体を張って教練に
臨んだが、母親以外の大人の女性の体を
知らない子供たちにとって
これは言うまでもなく逆効果であった。

五航戦の子達に弓を
教えるのとは勝手が違うわね…

ある日、プールサイドで足を滑らした
男の子の手がうっかり水着の中に入
り込んでしまう。

うわ…っ
ご、ごめんなさい

…ッ

…わざとじゃないのは
わかってるから早く
手を抜いてちょうだい

もともと加賀に対して思い入れの強かった男の子は
それ以来感情の歯止めがきかなくなり
ことあるごとに胸を触らせてくれるよう涙目で懇願した。
その子が依頼を受けた海軍高官の親類であったため
ことを荒立てるわけにもゆかず、加賀は渋々
その要求を受け入れた。

…このことは誰にも
言ってはいけないわよ

少年には性の知識が全くなく
自慰の仕方すら知らなかった。
そのため胸を弄っているときも
股間は切なそうに屹立するだけで、
見かねた加賀が指を添えて上下に
何度かこすってやると勢いよく射精した。

出たくわさん…

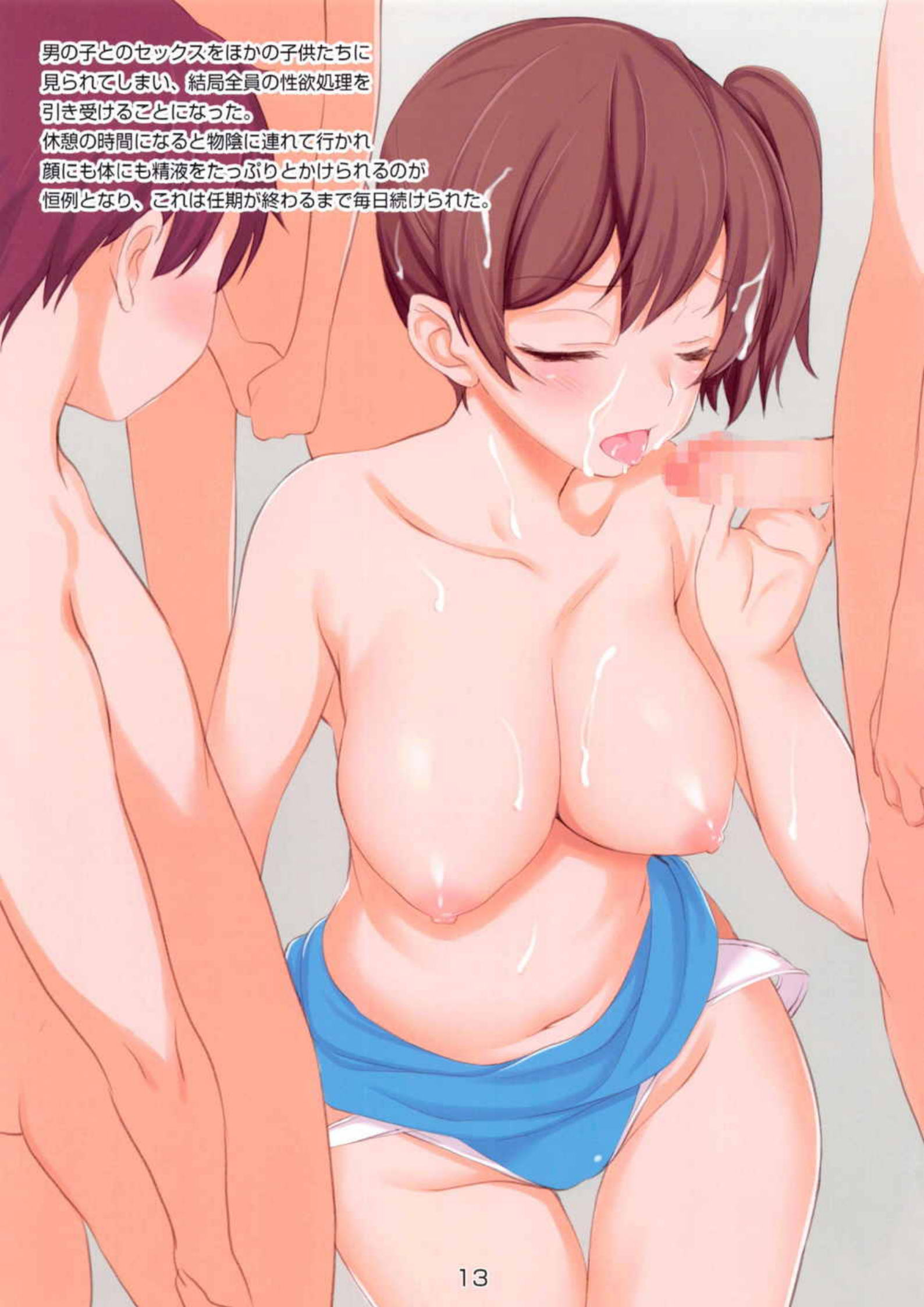
んっ…

一度射精を覚えると男の子の要求はどんどん
エスカレートしてゆき、ついに挿入を許してしまう。
最初こそ嫌悪感しかなかったが、自分の上で
一生懸命に腰を振る姿が徐々に愛らしく見え始め、
加賀の膣内は精液を吐き出すペニスを
無意識に締め付けてしまう。



男の子とのセックスをほかの子供たちに見られてしまい、結局全員の性欲処理を引き受けることになった。

休憩の時間になると物陰に連れて行かれ顔にも体にも精液をたっぷりとかけられるのが恒例となり、これは任期が終わるまで毎日続けられた。









あとがき

こんにちは、かな鉄木です。

前回に引き続き『艦隊これくしょん』から正規空母加賀さんの本を描かせて頂きました。

加賀さんで描くというのは夏の時から既に決めていたんですが、何を描くかという部分で迷ってしまって内容を決めるのにすごく時間がかかりました。

単純に生産量がもっともっと向上すれば描きたいものは全部描けるようになって何を描くか、何を描かないかの葛藤も改善されるはずなので、来年以降の課題と思って精進しようと思います。

さて、今回は無数にある加賀さんの可能性の中から落書きでよく描いていた水着の加賀さんの話を膨らませて、マイクロビキニの加賀さんと競泳水着の加賀さんの2本を収録してみました。

「折角ならフルカラーで描きたい、1本だけでなくもっと描きたい、イラスト1枚じゃなく続きものにしたい」と、やりたいことを詰め込もうとした結果、なんだかとりとめのない本が出来上がったような気がしますが、楽しんで頂けたら幸いです。

さて、今回も本を作るにあたって事務その他諸々を引き受けてくれたたまきさん、そしてこの本を手にとって見て頂いた皆様方、本当にありがとうございます。

また次の本でお会いできたらと思います。
それでは一っ。

「加賀さんに水着を着せてあれやこれやする本」

発行日 2014年12月30日

発行 夕風荘 <yunagiso@gmail.com>

著者 かな鉄木 <pixiv 459051>

印刷 サンライズパブリケーション

本書の無断転用・複製を禁じます。

加賀さんに水着を着せてあれや、これやする本